



編集・発行

2007 年 3 月号

№381

カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）

〒730-0016

広島市中区幟町 4 番 42 号

TEL (082)221-0621

FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

主任司祭 澤野耕司神父

助任司祭

バンガンスベルゲ神父

金炫勇(キム・ヒョンヨン)神父

シスター 小野島照子

「殉教者の血は教会の種子となる」(2)

— イエスの死と殉教 —

澤野耕司神父

イエスは、なぜ同胞のユダヤ人からローマ軍に渡され、殺されたのでしょうか。

当時、ユダヤの国はローマ帝国の属国でした。ローマは帝国内の国々を植民地とし、そこからのあらゆる財を搾り取るために強大な軍事力と宗教を利用して支配していました。ローマ皇帝は自らを神々の中でもっとも偉大な神として、人々の上に絶対者として君臨しました。しかし、唯一・絶対の神を信じているユダヤ人にはそれが通じません。ローマはユダヤ人を完全に服従させることに手を焼いていました。そして、もしユダヤの国に暴動でも起きたらすぐに滅ぼしてしまおうという機運が昂（たか）まっていたのです。

一方、ユダヤの国の指導者たち（祭司長や長老たち）は、ユダヤの国の滅亡を恐れ、国の中に不穏な動きが起こることを恐れていました。

ところが、イエスの福音の教えによると、神様はすべての人の一人ひとりを、社会の片隅で役に立たないものとして小さくさせられていた個人を尊び、大切にしておられます。彼らは社会の中で上に立つ指導者によって哀れみを受け、生かしてもらっているわけではなく、神様から直接生かしても

らっているの

です。今日の言い方では、神様から直接人間としての尊厳と権利をいた

だいているのです。指導者はそのことを尊重しなければなりません。

ユダヤの指導者たちはこの教えが社会を混乱させて、ローマに目を付けられて国を滅ぼしてしまう原因になると見ました。彼らにとっては、一人ひとりの人間よりも、ユダヤという国のほうが大切でした。国のために人がいるのではなく、一人ひとりの人間のために国があることを忘れていたのです。彼らにとっては、イエスも「国賊」「非国民」だったのです。そして、そんなイエスを抹殺することを前提とした裁判が開かれたのでした。

キリスト信者が受ける迫害や殉教は、いつもこのような政治的動きの中で起こるのです。（つづく）



四旬節プログラム

4 月 1 日	9:30	ミサ前 枝の祝別と行列
4 月 4 日	14:00	聖香油ミサ
4 月 5 日	19:00	主の晩餐のミサと御聖体礼拝
4 月 6 日	19:00	受難の祭儀と聖体拝領
4 月 7 日	19:00	復活の聖なる徹夜祭
4 月 8 日	復活祭 9:30	司教ミサ その後家族デー

飛び込みインタビュー

3 月いっぱい韓国に帰られる金神父様に、インタビューをしました。



お名前 : 金 炫勇 (キム ヒョン ヨン)
生年月日 : 1973 年 1 月 5 日
霊名 : ヨハネ

生い立ちや家庭環境についてお聞かせください。

150 年前（5 代前）から続く親戚一同信者の三人兄弟の長男。祖父母の影響で幼少の頃から聖書に親しみ、小学生の時には「カリスマっ子」と呼ばれ、友達を集めて聖書の話をしてあげる事もしていました。

今も続いている剣道を始めたのもその頃です。小学生の頃に厳格な信仰生活とは違う環境にぶつかり、日曜学校から離れてしまったこともあります。祈りから離れたことはありません。

高校生の頃には海外を見て回るのが好きで、訪問した数は 40 カ国にも及びます。韓国では成績優秀でないと司祭にはなれないため、自然と神学校に進みました。途中徴兵制度で 3 年間の軍隊生活を経験しましたが、得意な外国語を生かした仕事に就き、大学での研究の機会にも恵まれました。

日本と韓国との違いは？

韓国でのカトリックの布教の歴史はヨー

ロッパからの宣教師ではなく、1801 年韓国の学者により上流階級に広められました。現在も修道会ではなく、教区中心の組織で司祭の社会的地位も非常に高く、尊敬される存在です。そのため、司祭になりたい人が多く、1 教区 300 名の司祭がいて 17 教区あります。カトリック信者は 450 万人と人口の 11% を占めています。プロテスタントは 25% ですが多数の宗派に分かれているのでカトリックの勢力には及びません。典礼も昔ながらの厳しさが今でも続いています。

日本では司祭と信徒の差があまり無いのでカルチャーショックを受けました。

韓国は権力任せの組織を縮小し、日本は典礼を強めていくと理想だと思います。

日本での自分をどのように感じていますか？

韓国では司祭が様々な面で権限を持っているので、人と意見がぶつかるということは無いのですが、日本では様々なこと思うようにはいかず怒りっぽくなるがありました。

今後はどのようなことに取り組んでいきますか？

広島大学大学院での剣道の研究を帰国後も続けます。また、来日前に留学していたイスラエルでの聖書の研究も続けていきたいです。日本で気づいた、短気になりがちな性格も抑えられるよう成長したいと思います。

ありがとうございました木村博明神父様

1月13日に帰天された木村神父様への感謝と思い出を、2人の方から寄せられましたので紹介します。

「神父様のお髭」

K.N(高屋地区)

三篠教会で私の家族は神父様に大変お世話になりました。姑の洗礼、葬儀。今写真を出して見ますと深堀神父様と若き時代のお姿に接し色々な想いが浮かんでまいります。姑の死から3年後の1971年夫が42才で亡くなりました。その時は早速病院にかけつけて下さり亡き夫の姿を写真におさめて下さいました。その時私は気持ちが転倒し、ハッキリと記憶に有りませんが、少したって夫の死を機に藤沢神父様とお二人で髭を伸ばし始められた事を知りました。「司教様やお母様から髭を落とす様すすめられましたけど」とご本人から聞きました。神父様はどんな想いを込めて36年もの長い間髭をたくわえておられたのか今となっては尋ねる由もなく残念でなりません。昨年お見舞かたがた幟町教会でお会いしたのが最後となりましたがいつもあの笑顔で若々しいお声で「ヤァー」と手を上げて下さるお髭の神父様のお姿が忘れられません。祈りのうちに。

「木村神父様と長崎」

H.A

私の受洗は長崎 26 聖人の殉教地、西坂教会でした。2月5日木村神父様、代父母夫妻にわざわざ長崎まで同行して頂きました。ある日公教要理が進んだ頃、神父様から洗礼名を聞かれた時、26 聖人の中のルドビコ 茨木と答えました。すると神父様はいとも簡単に「それなら長崎へ行きましょう」と。西坂教会では夢の様な感激の中で洗礼を受けました。午後から聖母の騎士へ出向き、コルベ記念館を訪問。その地にあるルルドへ、きつい坂道を神父様は、あの曲った体に大きなリュックをしょって、手にロザリオを持ち、それでも足取りは強く登って行かれました。ルルドでは暫く祈っておられました。帰途の折、少し心残りの様子で何度か振り返っておられました。私は毎年殉教日には、西坂のミサに参加しています。今年からは神父様と一緒にです。そして、いつも私の耳もとで語りかけてくれます。A君「神は愛なんですよー」って。



敬老祝賀会で十八番の忠臣蔵を披露
(2000.9.10)

藍綬褒章受章祝賀会にて (2002.11.30)

● 略歴

1922年(大正11年)7月13日 広島市千田町にて誕生

1949年(昭和24年)2月27日 祇園教会にて受洗

1962年(昭和37年)3月 東京カトリック神学院卒業

3月21日叙階(世界平和記念聖堂)

司祭職の略歴

1962年 助任司祭 観音町教会

1964年 助任司祭 三篠教会

1967年 主任司祭 三篠教会

1971年 主任司祭 廿日市教会

1972年 助任司祭 幟町教会

1975年 主任司祭 三原教会

1980年 園長 尾道清心幼稚園

1983年 主任司祭 三篠教会

1990年 主任司祭 三原教会

1994年 協同司祭 福山教会

1995年 主任司祭 尾道教会

1998年 助任司祭 幟町教会

2007年1月13日 帰天

洗礼志願式について

バンガンスベルゲ神父

先日の 2 月 18 日に、9 時 30 分のミサ中 8 名の大人が**洗礼志願式**をしました。8 人とも 4 月 7 日の聖土曜日に洗礼を受けることになっています。（写真参照）

一年前から入門講座が始まって、延べ 33 名の未受洗者が参加し始めましたが結局 8 名がずっと続いて、洗礼を受けることになりました。

この 8 人に対して、司祭は全教会を代表して、“代父”または“代母”の証言および“教話担当者”の判断を確認したうえ、“あなた方は十分準備が出来て、洗礼を受けるのにふさわしい者として選ばれた人々です”と公に宣言したうえ、それぞれの額に“聖香油”を塗りました。

それが洗礼志願式でした。

ところで、ごミサにあずかっている信者の多くは大人になってから洗礼を受けているのに、そういう“洗礼志願式”は受けた覚えがないというでしょう。

それもそのはず。第二ヴァチカン公会議を契機に、カトリック教会は、大人の入信への歩みを見直しました。

初代教会のやり方を大きく参考にして、いわゆる“入信の秘跡：洗礼、堅信、聖体”に到るまで、いくつかのステップ（中間段階）を経て進むことにしました。

日本では、こうした教会の方針の実施に向けて、1973 年 3 月に“成人のキリスト教入信式”という儀式書が司教団によって、出版されました。

上智大学の百瀬神父様が、“キリストとそ



の教会”という本の中で指摘します。信仰とは、決して自分が一人で聖書を読んで、お祈りをしたからといって、与えられるものではない。いつも人々との交わりの中で与えられるものです。

そのことを美しく現しているのは、洗礼への新しい導き方です。

キリスト教のことを学び始めて、本気でキリストの教えを学びたいという気持ちになったときに、簡単な“入門式”があります。入門式によって求道者になります。次に、洗礼を受ける決心をして、その日程も決まった時点で、“**洗礼志願式**”が行われます。

最後に、数週間後、“**洗礼式**”そのものが行われます。

もちろん、時と場合に応じて、この三段階は一つになったり、二つになったりすることもあります。

いずれにしても、洗礼志願者はすでに洗礼を受けて、教会のメンバーである信者たちの共同体の中に、少しずつ受け入れられ、導かれるように具体的な工夫を考えなければなりません。

その共同体的な側面について、代父、代母、信徒の教話担当者、幼児の洗礼などのことを含めて、次回にでも述べたいと思います。

日曜学校から



餅つきって本当にいいですね

日曜学校

2月4日(日)よく晴れた穏やかな、絶好の日和のなかで、餅つきが行われました。

子供、大人あわせて50人くらい集まったのでしょうか?子供たちも、大人も、たくさんお餅を食べてすごく楽しそうでした。

餅つきって本当にいいですね。

このたびの餅つきは日曜学校の保護者に準備していただきました。慣れない作業で、たいへん苦労されたと思われます。有難うございました。

最初のお餅が出来るまではたいへん心配しましたが、社会部の方の作られたマニユ

アル、ご指導のお陰もあって上手く作ることが出来ました。

餅つきは、本当にみなさん喜ばれる行事で今後も続けたいのですが、準備から後片付けまでたいへんです。

次回も、たくさんの御協力よろしくお願いします。

日曜学校スケジュール

3月18日 終業式、卒業式

4月15日 入学式、始業式

幟町教会の現勢

(2006年1月1日~12月31日)

洗礼 47人(幼児9人・大人38人)

初聖体 22人 堅信 38人

転入 25人 転出 28人

帰天 14人

信徒実数

男性 1,016人 女性 1,525人

2月21日発表「信教の自由と政教分離に関する司教団メッセージ」(抜粋)

全文は、カトリック中央協議会 HP (<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/doc/cbcj/070223.htm>)

・・・ 教会は国家の正当な権威を認めますが、国の政策が神の意志に沿わない場合は、神に従う方を選びます。・・・ 最近、「社会的儀礼又は習俗的行為」の範囲内なら宗教的行為を国や公共団体が行っても良いのではないかという識者の意見が目立ち、それに沿った新憲法草案も発表されています。これに加えて、靖国神社を国家護持にする案、非宗教法人化する案など出てきています。これは、戦前、戦中と同じ道を歩む危険をはらんでいます。こうした考え方は、政教分離の原則をなし崩しにするばかりか、基本的人権としての信教の自由さえ脅かすものです。わたしたち日本カトリック司教団は、基本的人権である信教の自由を保障する政教分離の原則を堅持していくことを強く訴えます。それは、アジア諸国と共に平和を構築していくためにもどうしても必要なのです。

シリーズ・コラムの

テーマは「平和」！！

テーマを決めて、皆様の率直な意見を交換するシリーズ・コラムの欄を設けています。ただいまのテーマは「平和」。平和の使徒として、私たちの素直な思いをお寄せください。原稿は受付に提出をお願いします。

就寝時、なかなか寝付けないことがたまにあります。

祈っても 祈っても 素直に感謝のゆりかごで眠ることができず、一日のさまざまな出来事、人との関わりを通して湧き上がってくる、小さな「神様、なぜ」、大きな「神様、なぜ」に心が支配されてしまうのでしょ。困ったものです。「なぜ、私は不安なの」「なぜ、こんなに困難な事柄をぶつけられるの」「なぜ、こんなに忙しいの」「なぜ、あの人を救せなかったの」「なぜ、祈らないで心を取り乱したの」「なぜ、感謝できなかったの」「なぜ、落ち込んでるの」etc・・・たくさんの「なぜ」の意味が分かりたくて、その原因と犯人を捜しまくっているのです。でも「なぜ」から出てくる答えからは、到底、安らぎや、神様の光、感謝、そして「平和」など見えてきません。

ところが最近、ふと目にした本の片隅に、時々起こる心の闇が一瞬で明るくなる特效薬を見つけました。（あくまでも この私のレベルに効くものなのですが・・・）

言葉のスイッチを切り替えるだけの簡単な特效薬。それは、心の中の「なぜ」を・・・「何のために！」にチェンジするだけなのです。たったそれだけで、不思議なことが起こります。感じ方は、人それぞれでしょ。静かに、でも確実に澄んでゆく心の平安を感じます。堂々巡りの深い闇から、ずっと神様が引き上げてくださる実感です。「そっか・そうだった。」と 現実と自分が受け入れられるようになります。

「何のために」の向こう側に、神様のみ旨と計らいがしっかり見えてきます。安心と信頼のうちに、確実に一歩を踏み出せる勇氣と力が与えられています。

「何のために、仕事をしているの」「何のために、家族がいるの」「何のために、病気になったの」「何のために、出会ったんだろう」「何のために、別れがあるの」「何のために 生かされてるの」「何のために、勉強しているの」「何のために、祈るの」・・・

その、簡単な、でもとっても大切な答えを分らせて頂くために、私は時々、大きな回り道をして神様をお待たせしています。でも平和の使徒となるために・・・たまには使ってみなさいと、神様から小さな心の常備薬をいただきました。

もし、必要な方がいらっしゃいましたら 時々一緒に思い出して使ってみませんか。

きっと、沖に漕ぎ出すオールに更に暖かい力が加わることでしょ。

(K.E.)

りで行います。

運営委員会からのお知らせ

- 各組織の代表及び会計担当の方は、2007 年度活動諸経費（行事等）申請書を 3 月 18 日までに教会事務所に提出してください。
- 一粒会納付金袋、趣意書は連絡ボックスに入れる方法で配布します。
- 来年度の運営委員の届出は 3 月 18 日までにしてください。
- 4 月 1 日の枝の主日で使う枝は 3 月 29 日枝切り、30 日準備します。
- 4 月 8 日の復活祭家族デーは例年通り持ち寄りで行います。
- 4 月 11 日～14 日（3 泊 4 日）上五島巡礼を予定（詳細が決まり次第、週報等でお知らせします）
- 信徒総会は 5 月 13 日

